

平成19年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
21	臨床薬物動態学 (TDM部門)	No. 1 1枚		

以下の設問について、記述が正しい場合には○を、誤りの場合には×を解答欄の（ ）に記載しなさい。

- 問1 維持投与量の計算には、全身クリアランスを用いる。
 問2 負荷投与量の計算には、分布容積を用いる。
 問3 40歳の女性患者の Cockcroft-Gault 法によるクレアチニンクリアランスの予測値は、患者の体重が 50 kg、血清クレアチニン濃度が 0.8 mg/dL のとき、約 74 ml/min である。
 問4 テオフィリンの血中濃度が 5 mg/L ($\mu\text{g/mL}$) のとき、増量が薦められる。
 問5 テオフィリンを静脈内投与するとき、3 分で投与する。
 問6 テオフィリンの血中濃度は、インフルエンザワクチン接種後に低下する。
 問7 テオフィリンの血中濃度は、フェノバルビタールを併用すると低下する。
 問8 ジゴキシンの血中濃度は、投与後 3 時間に測定する。
 問9 ジゴキシンの血中濃度は、アミオダロンを併用すると上昇する。
 問10 ジゴキシンの分布容積は、腎機能が低下すると増加する。
 問11 ジゴキシンの血中濃度の治療域は、0.5~2.0 mg/L ($\mu\text{g/mL}$) である。
 問12 シクロスポリンのトラフ（最低）血中濃度の治療域は、50~250 $\mu\text{g/L}$ (ng/mL) である。
 問13 タクロリムスのトラフ血中濃度の治療域は、50~250 $\mu\text{g/L}$ である。
 問14 タクロリムスの TDM では、血清中薬物濃度の測定を行う。
 問15 ゲンタマイシンは、PAE (post antibiotic effect) を示す。
 問16 ゲンタマイシンは、MIC 以上の血中濃度持続時間と効果が関連する時間依存性薬剤である。
 問17 アミカシンは、MRSA 感染症に有効なアミノグリコシド系抗生物質である。
 問18 アルベカシンは、MRSA 感染症に有効なグリコペプチド系抗生物質である。
 問19 アルベカシンのトラフ血中濃度が 2 mg/L を超えると、腎障害の発生頻度が高まる。
 問20 バンコマイシンは、緑膿菌感染症に有効なアミノグリコシド系抗生物質である。
 問21 バンコマイシンの血中濃度測定のため採血は、点滴開始直前と点滴終了直後に行う。
 問22 バンコマイシンの治療域は、ピーク血中濃度が 5~10 mg/L、トラフ血中濃度が 2 mg/L 未満である。
 問23 バンコマイシンのトラフ血中濃度が 15 mg/L を超えると、骨髄抑制の頻度が高まる。
 問24 フェノバルビタールの 1 日投与量と血中濃度は、治療濃度範囲では比例する。
 問25 フェニトインの治療域は、血清アルブミン濃度が正常のとき、10~20 mg/L である。
 問26 フェニトインは、血清アルブミン濃度が低下したとき、血中濃度が低下するので増量する必要がある。
 問27 フェニトインを服用中の患者にバルプロ酸を併用するとき、フェニトインの血中濃度は上昇する。
 問28 リドカインは、心不全の治療に用いられる TDM 対象薬である。
 問29 フレカイニドは、不整脈の治療に用いられる TDM 対象薬である。
 問30 メトトレキサートによる粘膜障害は、その血中濃度と関連する副作用である。

解答欄

問 1 ()	問 11 ()	問 21 ()
問 2 ()	問 12 ()	問 22 ()
問 3 ()	問 13 ()	問 23 ()
問 4 ()	問 14 ()	問 24 ()
問 5 ()	問 15 ()	問 25 ()
問 6 ()	問 16 ()	問 26 ()
問 7 ()	問 17 ()	問 27 ()
問 8 ()	問 18 ()	問 28 ()
問 9 ()	問 19 ()	問 29 ()
問 10 ()	問 20 ()	問 30 ()

採点	
----	--

[]